

〈研究主題〉

文学的な文章における語彙を豊かにする指導

－ タブレットを利用した文章ブックの作成と活用を通して －

令和元年度 長期研修 A 登米市立東郷小学校 佐々木 幸恵

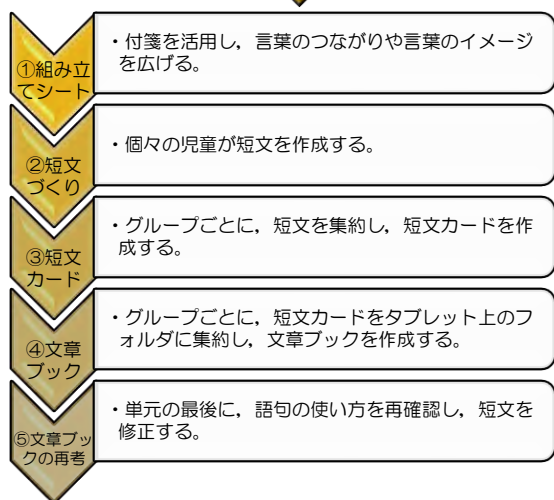
意味調べは  
したけれど・・・

〈本研究〉

- ・ 語句を活用した連作文づくりで理解語彙や使用語彙を増やす。
- ・ 語句や表現を比較し、そこから受ける印象の違いについて思考させ、語彙を豊かにする国語の授業。

意味は似ている  
けど、使い方も  
同じかな？

タブレットを利用した文章ブック①の作成



使用語彙を増やす家庭学習での取組

- ・ 語句一覧表は、紙媒体のものをノートに貼り付け活用。
- ・ 家庭学習でも、連作文づくりに取り組ませる。

文章ブックを活用した連作文づくり

タブレット上の文章ブックの活用



文章ブックを活用した授業づくり

- ・ 場面の読み取りで、人物の気持ちや様子を表す語句の意味を再確認する際に活用することで、人物の心情を深く読み取ることができるようにする。

人と話したり書い  
たりすることが楽  
しくなったよ。

いろいろな本を  
読むことが好き  
になったよ。

国語以外の勉強も  
得意になったよ。

語句の意味を理解し  
たら、人物の気持ち  
がよく分かったよ。

進んで表現する  
児童の育成

語彙が豊かになる

理解語彙が増える  
使用語彙が増える

確かな言語能力  
学力向上

# 1 実践授業「サーカスのライオン」

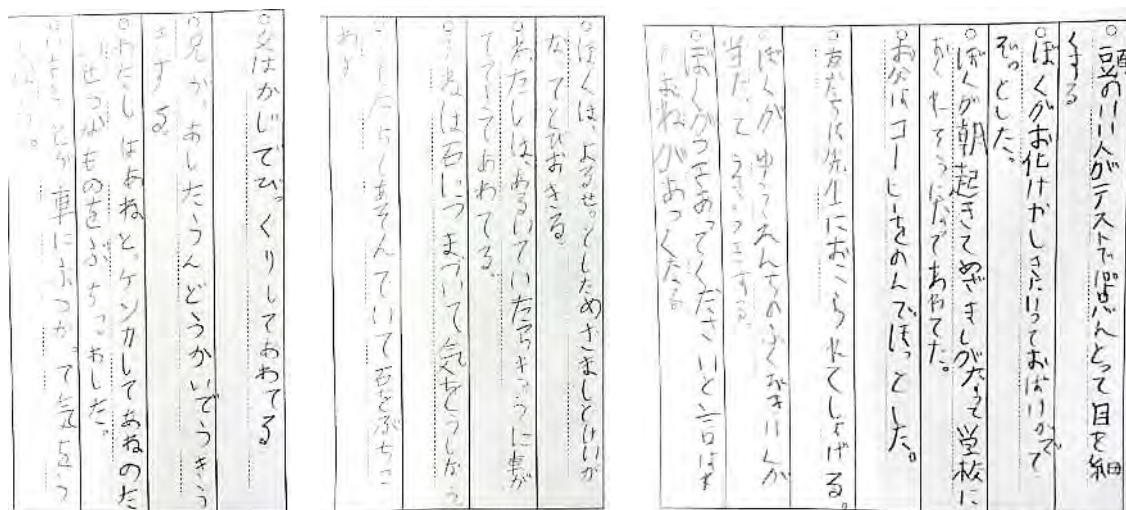
## (1) 文章ブック活用の様子(写真)

連作文づくりで、タブレットの文章ブックを活用している場面である。左が1回目のグループで活用している場面、中がペアで活用している場面、右が一人で活用している場面である。



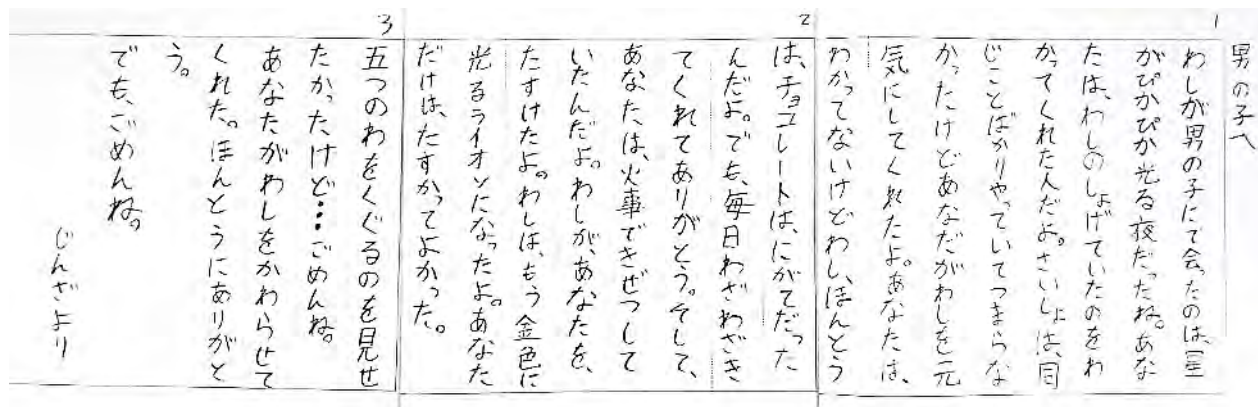
## (2) 第2回実態調査(短文づくり)

下記の児童3名は、1回目の短文づくりで、左と中は1文も短文を作ることができなかった児童で、右は2文しか短文を作ることができなかった児童である。しかし、2回目の短文づくりでは、語句の意味を理解し、語句を使う場面をイメージして、左と中の児童は4文ずつ、右の児童は11文、短文を作ることができていた。



## (3) 「じんざ」から「ぼく」への手紙

下記の児童は、場面と場面のつながりを考えながら、人物の心情を考えることに課題のあった児童であるが、手紙を書く際には、場面と場面のつながりを考えながら、中心人物の心情を捉えて手紙に表していた。





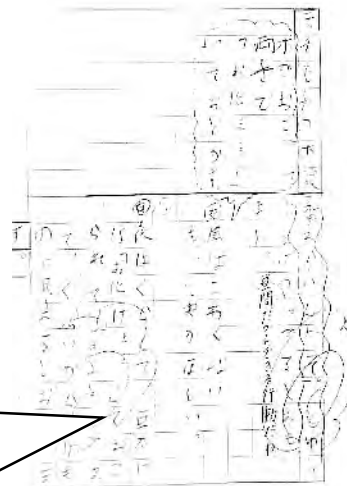
## 2 実践授業「モチモチの木」

### (1) 児童のノート

左が第4時、右が第5時の児童のノートである。1回目の短文づくりで、左が2文、右は1文も短文を作れなかった児童であるが、どちらの児童も語句や表現の工夫に着目しながら、人物の心情について、熱心に自分の考えを書くことができていた。



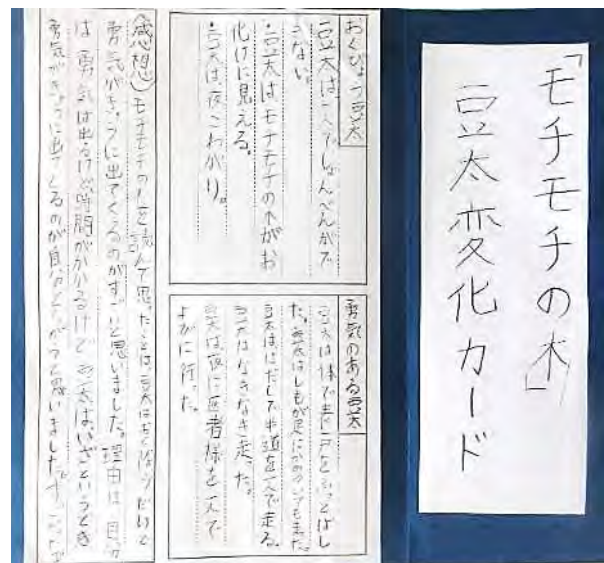
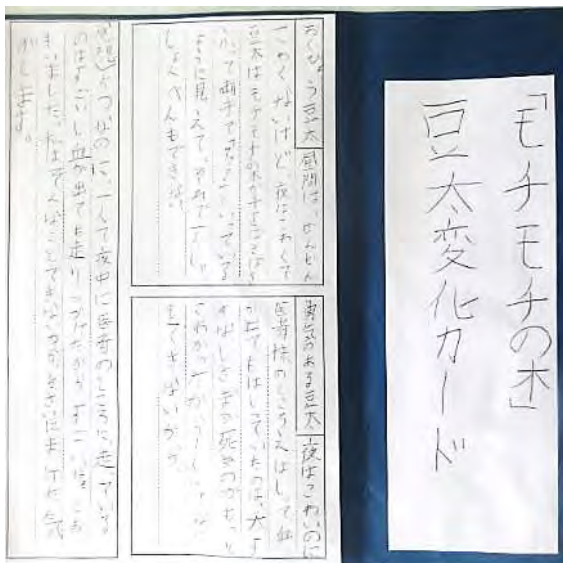
昼間だったら見てえなあ  
：に込められた豆太の気  
持ちを考える場面であ  
る。児童は「ぼく朝はモ  
チモチの木はおぼけみた  
いじゃないからいいんだ  
けど夜はモチモチの木を  
おらはおぼけだと思っ  
て見れるかわからないけ  
どちよつとみてみようか  
：（原文のまま）」と記  
述した。その後の話合い  
では、見たい気持ちとだ  
めだと思っ気持ちと戦っ  
て「やつぱりだめだ」と  
悲しい気持ちになったと  
発言している。



いばつてさいそくする  
豆太の様子から、「本  
当は弱虫だけど、豆太  
はぼくが一番えらいん  
だぞ。というふうにな  
っていると思います。  
（原文のまま）」と、  
豆太の心情を捉え、ノ  
ートに自分の考えを記  
述した。

### (2) 第3次「豆太変化カード」

第3次の学習で、児童が作成したものである。左は、意識調査の結果で、「語句の活用が苦手で、国語の学習も好きではない」と答えた児童である。右は、国語の学習への意欲が高い児童であるが、語句の活用には課題のある児童である。どの児童も、2次までの学習を生かし、自分で登場人物の変化についてまとめ、自分の感想を加えることができていた。



|          |                                                       |
|----------|-------------------------------------------------------|
| 研究<br>主題 | 文学的な文章における語彙を豊かにする指導<br>ー タブレットを利用した文章ブックの作成と活用を通して ー |
|----------|-------------------------------------------------------|

## 第3学年 国語科学習指導案

指導月日 令和元年9月9日(月)

所属校名 登米市立東郷小学校

氏名 佐々木 幸恵

## 1 単元名 感想を伝え合おう サークスのライオン（東京書籍「新しい国語3下」）

## 2 児童の実態〔第3学年1組 男・11名 女・13名 計・24名〕

第3学年の児童は、国語への興味・関心が高く、学習態度が真面目で、どの児童も意欲的に学習に取り組んでいる。

児童は、これまでの文学的な文章の学習を通して、叙述を基に、人物の心情を捉えることができるようになってきている。しかし、語句の意味については、意味調べをただけにとどまり、語句の使い方までを理解しているわけではないため、語句の意味を考え、人物の心情について深く考えたり、それを自分の言葉で書いたりすることに課題のある児童も多い。

また、「すいせんのラッパ」で学んだ語句についても、意味調べは行っているが、語句の使い方を理解できていないため、語句の意味を説明したり、語句を使って短文を作ったりするまでには至っていないものが多くあった。

## 3 研究主題との関連

## (1) 文学的な文章における語彙を豊かにする指導

文学的な文章は、児童にも親しみやすく、話の内容も比較的読み取り易い。しかし、中学年になり文学的な文章に使用されている語句の理解に困難を示す児童も多く見られる。人物の心情や様子を読み取るためには、語句の意味を理解することが大変重要である。また、語句の量を増し、話や文章の中で使うことができるようにするためには、連作文づくりや語句集めなど児童の語彙を広げていくような語彙指導を取り上げて行う必要があると考える。

## (2) 短文カード及び文章ブックの作成

語句一覧表の語句を活用し、語句をグループに分担して、家庭学習で、個々に組み立てシートを活用しながら短文づくりに取り組ませる。次に、朝のスキルタイムでグループ毎に短文カードを完成させ、教師がタブレット上のアプリに集約し、文章ブックを完成させる。

サーカスのライオンでは、短文カードを2種類準備し、教科書の本文で使用されている語句については教科書の例文を入れ、言葉の学習で取り上げられている感想を表す語句については、辞書の例文も入れたものを使用する。

## (3) 文章ブックを活用について

文章ブックは、第2時の連作文づくりと場面ごとの読み取りの学習で活用を図るようにする。

連作文づくりでは、シンキングタイムを設け、文章ブックを開きながら語句の意味や例文を確認することで、多様な語句に触れるようにする。また、場面ごとの読み取りの際には、登場人物の様子や行動を表す語句の意味を文章ブックで確認する時間を設けることで、人物の様子や心情を的確に捉えることができるようにする。

#### 4 本時の計画

##### (1) 本時の目標

様子や行動、気持ちや性格を表す語句の意味を理解し、それを使って連作文を作ることができる。  
〔知識及び技能〕

##### (2) 本時の指導に当たって

本時では、文章ブックを活用しながら、お話づくり（連作文づくり）に取り組ませる。導入では、1学期の学習で児童が作成した連作文を提示し、1学期の学習を想起させる。

展開では、お話づくりの流れを黒板に提示することで、本時の学習の見通しが持てるようにする。そして、一文目に活用する語句については、これまで使ったことのない語句やこれから使ってみたい語句を事前に決めさせておき、文章ブックを参考にしながら個々に短文が作れるようにする。また、二文目以降については、シンキングタイムとして、文章ブックの語句の意味や例文を確認させる時間を設けることで、多様な語句に触れさせる。展開後半は、中心となる人物の気持ちが表れている語句である「力のかぎり」と「ぶちこわす」を取り上げ、既習の語句との違いに気付かせることで、語彙を豊かにできるようにする。

終末では、お話づくりで使った語句について語句一覧表にチェックさせることで、単元の学習が終わるまでに多様な語句が使えるように見通しを持たせる。

##### (3) 指導過程（※別紙）

##### (4) 本時の評価

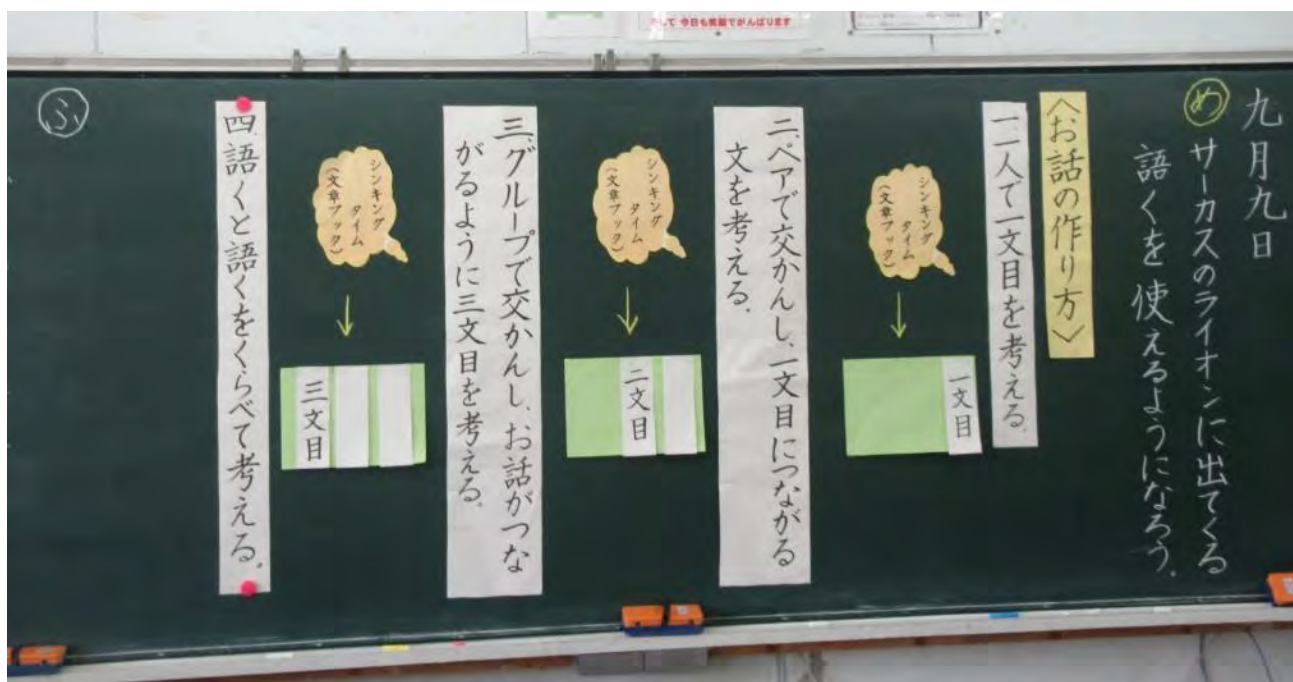
様子や行動、気持ちや性格を表す語句の意味を理解し、文章ブックの語句を使って3文節以上の文を作ることができたか。  
〔知識・技能〕

##### (5) 準備物

教師：タブレット、文と文をつなぐ言葉一覧表、お話づくり短冊シート

児童：タブレット、ノート、筆記用具

##### (6) 板書計画



(3) 指導過程 (本時 2/9)

| 段階        | 学習活動<br>○主な発問及び指示・予想される児童の反応                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 形態                                             | ・指導上の留意点<br>※評価 (評価方法)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入<br>5分  | 1 本時の課題を知る。<br>サーカスのライオンに出てくる語くを使えるようになる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 一<br>斉                                         | ・ 1 学期に児童が作成した連作文を提示し、1 学期の学習を想起させる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 展開<br>30分 | 2 本時の学習の流れとお話づくりの手順を知る。<br>(1) 一人で、一文を作る。<br>(2) ペアで交換し、一つ目の文につながる文を考える。<br>(3) グループで交換し、お話がつながるように、三文目を考える。<br>(4) 語句と語句をくらべて考える。<br>3 お話づくりに取り組む。<br>(1) 個々に短文づくりに取り組む。<br>○文章ブックの短文や例文を参考に、一文目を考えましょう。<br>○早く終わった人は、さらに、様子を表す言葉を入れてみましょう。<br>(2) 個々にペアで交換して一つ目の文につながる文を考える。<br>○語句の意味に合った文になっているかつながりは大丈夫か確認しましょう。<br>(3) 個々にグループ内で交換し、お話がつながるように最後の一文を考える。<br>4 今まで使っていた語句と新しい語句を比較し、意味の違いについて考える。<br>○力いっぱいとか力のかぎりは、どのように違うでしょうか。<br>○こわすとぶちこわすは、どこがどのように違うでしょうか。 | 個<br>別<br>・<br>ペ<br>ア<br>・<br>グ<br>ル<br>ー<br>プ | ・ 作成方法については、作業手順を書いた文を黒板に貼っておき短冊を貼りながら説明する。<br>・ 文章ブック用タブレットは、一人に1台配付し活用させる。<br>・ シンキングタイムのカードを提示し、短文づくりをする前に、どの語句が使えるそうか考えることを確認する。<br>〈文章ブックの活用〉<br>・ 文と文をつなげる言葉については、児童が活用しそうなものをホワイトボードに掲示しておく。<br>・ 一文目に使う語句については、使ったことのない語句やこれから使えるようになりたい語句を選ばせて語句一覧表に赤でチェックさせておく。<br>・ 早く終わった児童には自分の作った文を読み直し、さらに、様子を表す言葉を入れるように話す。<br>・ 使っている人が少ない語句を使えた児童を紹介する。<br>・ グループでの活動が終わった場合には新しい語句を選んで、お話づくりにチャレンジするよう話す。<br>・ 既習の語句と新しい語句の意味の違いに触れ、語感を豊かにする。<br><br>※様子や行動、気持ちや性格を表す語句の意味を理解し、3文節以上の文を作ることできたか。<br>(連作文づくり短冊) |
| 終末<br>10分 | 5 本時の学習を振り返る。<br>(1) 個々に語句一覧表に、使った語句のチェックをする。<br>(2) 振り返りをノートに書き、発表する。<br>○今日の学習でできるようになったことやこれから頑張りたいことを振り返りに書きましょう。<br>・ あまり使ったことがない語句を使うことができました。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 個<br>別<br>・<br>一<br>斉                          | ・ 今日使った語句を語句一覧表にチェックさせ、単元の学習が終わるまでに多様な語句が使えるように目標を持たせる。<br>・ できるようになったことやこれからの学習で頑張りたいことをノートに書かせる。<br>・ 数名の児童に発表させる。<br>・ 文章ブックは単元の読み取りの学習に活用できることを話す。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |